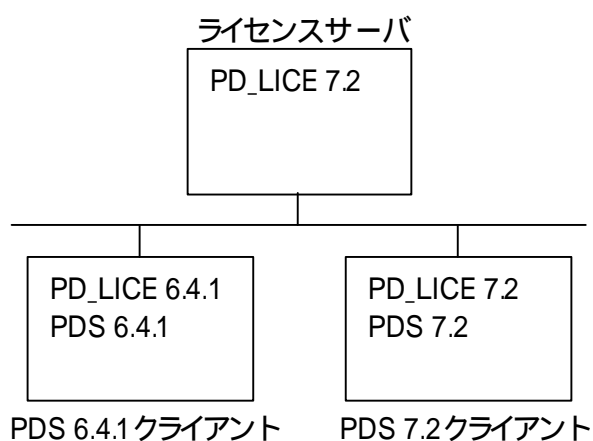

ライセンスサーバ上での PDS 6.4.1 と PD_LICE 7.2 の混在

PDS Version 7.2 のリリースに伴って、2003 年 4 月以降、Intergraph から新たに発行される PDS ライセンスキーは PD_LICE 7.2 の形式となっています。この形式は PD_LICE 7.1 までのものとは異なり、PD_LICE 7.2 (または以降のバージョン)でのみインストールすることができます。PDS ライセンスサーバを新規に設置する場合、またはライセンス数の増減、ライセンス期間の更新、およびライセンスサーバの IP アドレス変更等を行う場合、Intergraph から新たに発行される PDS ライセンスキーをライセンスサーバに対してインストールする必要があります。このような場合には、ライセンスサーバ上で PD_LICE 7.2 を使用する必要があります。

1 ライセンスサーバとクライアントマシン

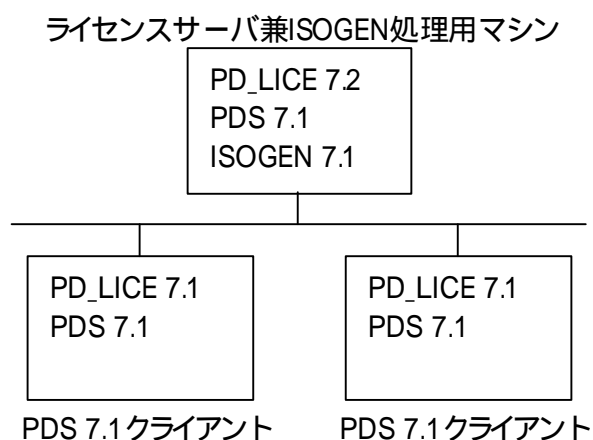
PD_LICE 7.2 のライセンスサーバは、クライアントマシン上の各バージョンの PDS の動作を管理することができます。例えば、PD_LICE 7.2 のライセンスサーバと PDS 6.4.1 のクライアントマシンによる環境を構成することが可能です。また、ネットワーク上に異なるバージョンの PDS クライアントマシンが混在している場合でも、1 台のライセンスサーバによる管理を行うことができます。この時、各クライアントマシンでは、それぞれの PDS ソフトウェアと同じバージョンの PD_LICE モジュールを使用します。



構成例 1

2 PDS 7.x マシンをライセンスサーバとする場合

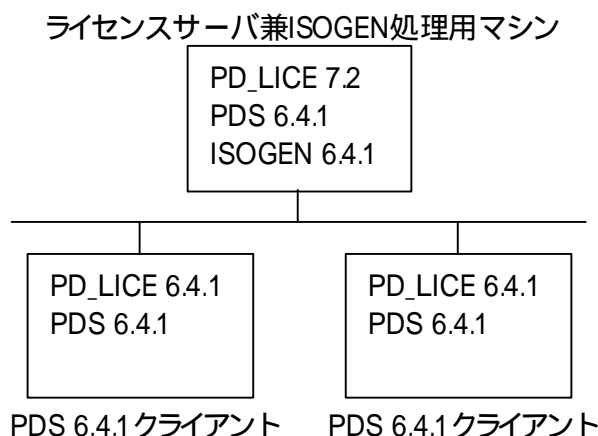
PDS 7.0, 7.1 の機能(ISOGEN のバッチ処理等を含む)を利用しているマシンをライセンスサーバとする場合、PD_LICE モジュールのみバージョン 7.2 を使用します。PD_LICE 7.2 は、1 台のマシンの上で PDS 7.0 または PDS 7.1 と混在させることが可能です。なお、クライアントマシンでは PD_LICE 7.2 を使用する必要はありません。



構成例 2

3 PDS 6.x マシンをライセンスサーバとする場合

PDS 6.3.1, 6.4.1 の機能(ISOGEN のバッチ処理等を含む)を利用しているマシンをライセンスサーバとする場合、PD_LICE モジュールのみバージョン 7.2 を使用します。ただし、1 台のマシンの上で PD_LICE 7.2 と PDS 6.x の他のモジュールを混在させるためには、下記 5 の手順によるインストールを行う必要があります。なお、クライアントマシンでは PD_LICE 7.2 を使用する必要はありません。



構成例 3

4 pdlice.exe ファイルのバージョン

PD_LICE の実行形式ファイルである pdlice.exe は、バージョンにより格納されているフォルダ、ファイルサイズが異なります。また、Windows NT エクスプローラ等で pdlice.exe ファイルのプロパティを表示することにより、バージョンを確認することができます。なお、現在(2003年4月22日)のところ、PDS 6.4.1 および PDS 7.2 では PD_LICE に対して下記以外のバージョン(Fix 版等)は発行されていません。

pdlice.exe ファイル:

バージョン	格納されているフォルダ	ファイルサイズ
06.04.01.10	C:\WIN32APP\INGR\PDLICENSE	95,232 bytes
07.02.00.15	C:\WIN32APP\INGR\PDLICENSE\bin	105,984 bytes

上記構成例 3 において、ライセンスサーバとして PD_LICE 7.2 形式のライセンスキーをインストールするには、PD_LICE 7.2 の pdlice.exe ファイルを動作させる必要があります。また、PDS 6.4.1 のクライアントマシンとしての操作(ISOGEN のバッチ処理等を含む)を行う際には、PD_LICE 6.4.1 の pdlice.exe ファイルを動作させる必要があります。

5 PDS 6.x マシンに対する PD_LICE 7.2 のインストール方法

PDS 6.x マシンに対して PD_LICE 7.2 をインストールする場合には、以下の手順を使用します。なお、PDS 6.x マシンには PD_LICE 6.x がインストールされている状態であるものとします。

- (1) PD_LICE 6.x の pdlice.exe ファイルのバックアップ
C:\WIN32APP\INGR\PD_LICE フォルダ内の pdlice.exe ファイルを他のフォルダへコピーし、バックアップしておきます。
- (2) PD_LICE 6.4.1 の削除
[スタート] プログラム Pd_lice REMOVE により、PD_LICE 6.4.1 の削除を行います。
- (3) マシンの再起動
一度マシンの再起動を行います。
- (4) PD_LICE 7.2 のインストール
Intergraph 社/武藤工業株式会社の技術サポート Web サイトからダウンロードした 281v07020015.zip ファイル、または PDS 7.2 の CD 等から PD_LICE 7.2 をインストールします。
- (5) PD_LICE 6.x の pdlice.exe ファイルのコピー
上記手順でバックアップしておいた PD_LICE 6.x の pdlice.exe ファイルを、C:\WIN32APP\INGR\PD_LICE フォルダへコピーします。2つのフォルダに異なるバージョンの pdlice.exe ファイルが存在する状態となります。
- (6) ライセンスキーのインストール
[スタート] プログラム Pd_lice License により、PD_LICE 7.2 の GUI バージョンを起動します。Install And Remove Options Install License Key を選択します。Key Installation ダイアログボックス上で、Key Type として Server を選択し、ライセンスキーの入力を行います。または、コマンドプロンプト上で以下のようなコマンドを入力します。

```
C:\>c:\win32app\ingr\pdlice\bin\pdlice -a [PD_LICE 7.2 形式のライセンスキー]
```

- (7) ライセンスサーバの登録
PDS 6.x のクライアントマシンとして参照するライセンスサーバの登録を行います。この登録作業に関しては、PD_LICE 6.x, 7.2 のどちらでも実行することが可能です。上記の PD_LICE 7.2 の GUI バージョンでは、Configure And Testing Options Select

License Server For Client を選択し、Select License Server For Client ダイアログボックス上でそのマシン自身の名前を入力します。または、コマンドプロンプト上で以下のようなコマンドを入力します。

C:\>pdlice -j [そのマシン自身の名前]

なお、PD_LICE 6.x, 7.2 のどちらのバージョンにより上記の登録を行ったとしても、PDS 6.x が動作する際には C:\WIN32APP\INGR\PDLICE フォルダ内の PD_LICE 6.x の pdlice.exe ファイルが使用されます。